

すきです ふじみ!

第17号

地域づくり通信

富士見地区地域づくり協議会広報

人と自然が共存・調和する 富士見の街づくりを

富士見町自治会連合会長 齊藤克幸

わが富士見町は、周辺地区を含め厳しい審査を合格し、世界スローシティへの加盟が認められました。スローシティとは、本市の友好都市イタリアのオルビエート市が発祥の地で、地域の食や農産物、生活・歴史文化環境を大切にしながら新たなまちづくりを目指すものです。シンボルマークは「カタツムリ」で、日本では気仙沼市に続き二か所目の登録です。わが町は、前橋市と合併後十一年目を迎えました。富士見町地域づくり協議会は、これまでも、安全・安心、生き生きと暮らせるような様々な取り組みをしてまいりました。

そして新たに、山本市長を先頭に、「富士見を元気にする十一のチャレンジ」の取組みが進められ、移住の相談に対応する空き家・空倉庫のリフォーム改修補助事業が開始されるなど、次々に支援メニューが追加されています。

富士見町地域づくり協議会は、引き続き「世界スローシティ加盟」を受け「地域固有文化顕彰活動」に取組み、よりよい町づくりに努力することをお誓いたします。皆さんの協力をお願いし挨拶とさせていただきます。



新たな地域おこし 協力隊の紹介

橋本 大介 (剣道三段)
福島県郡山市出身(前橋の前は東京)

八月から前橋市の地域おこし協力隊として赤城南麓地域を中心に活動しています。それまでは都内でパーソナルトレーナーとして十年ほど運動指導をしていました。私が前橋に移住したいと思ったきっかけが富士見町です。赤城山の自然、環境全てに惚れて移住を決定しました。そして、協力隊として委嘱されてからの四ヶ月間、新型コロナウイルスの影響で地域の行事の中止が相次ぎましたが、マリィゴールドの染色教室や白川の草刈り、小学生バレーボール教室などの行事に参加させて頂き貴重な経験をさせて頂きました。今までの生活とは百八十度変わり、最初は戸惑うこともありましたが、地域の方々のサポートのおかげで日々楽しく活動させて頂いています。

今後は私の強みでもある運動の知識を活かして健康の底上げをしていく活動をしたいです。



川島 志保

前橋市第二期地域おこし協力隊として活動を始めました、川島志保です。元々は東京都江東区の出身で、沢山の方のご縁とサポートをいただいで今年七月末に千葉県千葉市から移住してきました。

前橋市には二年ほど前から度々訪れておりました。たくさんの方の自然に触れ、赤城山で自分の志した仕事に全力で取り組む人たちと出会っていった中で、前橋市への移住を決めました。

興味のある食・動物分野で地域活動ができないかと模索していましたが、十月にはフクロウ30羽の移住にも携わることになり、現在、地域活動にもフクロウとお伺いする機会が増えてきました。

ここ最近の活動としては、元総社公民館でのフクロウ特別講座や、下川淵公民館の上毛新聞社さん出張展示のコラボ、桂萱公民館のロビー企画展示のレポートなどフクロウと共に務めました。

前橋の方はとても気さくな方が多く、私の協力隊活動だけでなく、日々の暮らしの困っていることにもたくさんサポートをいただいています。

わたしが本来やりたかった価値のある生き方を、いろんな分野の方から学ばせていただいたと思っています。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

白川河川の草刈り

白川河川部会 今井秀雄



令和二年は、中国武漢に発生したコロナウイルスに寄るパンデミックが起き、恐怖のベールに地球全体が覆われてしまうと云う異常な一年になりました。このような状況の中で、四年目となる今年度の草刈りを、富士見地区各団体のご協力を得て五月十七日から十月二十五日の間に五回の草刈り活動を実施しました。

密を避けるため、開始時・終了時の集まりは行わず、一人一人が出席を確認してから、決められた自分の持ち場に直行し、終了時に報告をして頂く流れで解散となりました。延べ、三百人の方が参加して下さり、今年も白川の堤防を美しく整備することができました。

これから、北消防署から国道三五三までの二キロメートルを整備し、親子連れが、お年寄りとお孫さんが、恋人たちが笑顔で集う！ そんな「夢の花園造り」を、どのように進めていくのか胸弾む思いがします。

地域づくり協議会では、これからも河川環境整備の活動を進めてまいります。皆様の御協力をお願い申し上げます。

遊休農地に思いを寄せて

自然環境部会 周東 聖子



自粛生活を余儀なくされる生活の中で、ひまわりとマリーゴールドの栽培活動には迷いも有りましたが、「花を咲かせたい！」の一念で、六月六日に種まきを行いました。その後の管理作業にも有志の方々が惜しみなく力を貸して下さい、開花を迎えることができ、いつもの年にして喜びと有難さを感じました。

天候に左右され、炎天下での除草作業は厳しく、遊休農地の存在は難しい課題だと実感しております。しかし、富士見に緑が残せるようお願い、地主さんに感謝をし、力を貸して下さい皆さんの熱意を励みに、この活動を継続して行きたいと思っております。

地域おこし協力隊をはじめとする若者の参加は心強く、農業や富士見に関心を寄せる次世代の人達の取り組みにも期待をしております。

身近な食物で染色

自然環境部会 周東 聖子



八月二十二日に、マリーゴールド栽培の目標のひとつである染色教室を富士見公民館の地域づくり講座として開催しました。

それぞれが、持ち寄った布や小物をマリーゴールドから抽出した液で染めました。家庭の台所にある鍋やステンレスのボール、牛乳、ミョウバンなどの道具と材料が揃えば小学生にも出来るとても簡単な手法の染色です。

参加者全員（3分の1に制限して十一名）の個性豊かな作品がずらりと並びました。お互いに講評し合い、笑顔で撮った集合写真は楽しい思い出となりました。

来年は是非、種から育てたマリーゴールドで染色を！
より一層、大切な作品になると思います。

前号で紹介しました本光寺の位置が違っていましたのでお詫びいたします。



発行 前橋市富士見地区地域づくり協議会
会長 狩野 貞夫 広報委員会
事務局 前橋市富士見町原之郷2512-1
Eメール chiiki.fujimi@gmail.com